

今年は、好天が続いたことから大豆の播種作業は順調に進んでいます。

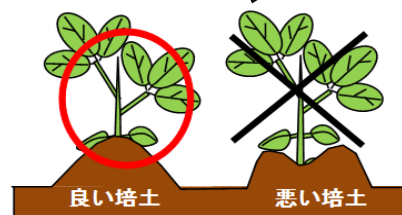
今後は、梅雨入りに備えて、排水対策を徹底するとともに、適期の培土作業や除草作業により、大豆の収量及び品質向上につなげましょう。

1. 培土作業は遅れず実施

- ・株元までしっかりと土がかかるように行いましょう。
- ・培土でできた溝は、額縁排水溝や基幹排水溝に、速やかに連結しましょう。

区分	培土時期	高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20～25日ごろ)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後30～35日ごろ)	初生葉が埋まる程度

M字型の培土では、株元に水がたまり、湿害や病害が発生しやすい。



2. 除草剤で雑草防除を徹底

- ・雑草対策は、播種直後の除草剤散布と2回の培土が基本ですが、培土後に雑草が繁茂した場合は、除草剤の散布が効果的です。
- ・大豆の生育状況や発生した雑草の種類を確認し、適切に除草剤を使用しましょう。

対象雑草	薬剤名	10a 当たり散布量	散布上の注意点
イネ科雑草	ナブ乳剤	150～200ml (希釈水量 100～150ℓ)	・イネ科雑草3～5葉期までに散布する
	ポルトフロアブル	200～300ml (希釈水量 50～100ℓ)	・イネ科雑草3～10葉期までに散布する
イネ科雑草 と 広葉雑草	New パワーガイザー液剤	200～300ml (希釈水量 100ℓ)	・大豆出芽直前～3葉期まで(雑草2葉期まで)に散布する
	バスタ液剤	畦間処理：300～500ml (希釈水量 100～150ℓ)	・強風時の散布は避ける
	ロックス	100～200g (希釈水量 70～150ℓ)	・大豆3葉期以降に畦間・株間処理する ・イネ科雑草やツユクサには効果が劣る
広葉雑草	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前まで 雑草茎葉散布： 100～150ml (希釈水量 100ℓ)	・著しい高温時は、薬害が出やすいので、使用を避ける ・エノキグサやアサガオ類などには効果が劣る ・本剤の使用回数：1回以内
		大豆生育期 畦間処理：300～500ml (希釈水量 100ℓ)	

※バスタ液剤、ロックス、大豆バサグラン液剤を使用する場合は、つり下げノズルを使用するなどして、大豆にかからないよう注意しましょう。

また、近隣の作物にかからないよう注意するとともに、使用基準を厳守しましょう。

大雨の前後には排水溝の点検と補修を行い、ほ場内に水が溜まらないようにしましょう。